

令和3年度

事業報告

社会福祉法人 能美市社会福祉協議会

令和3年度事業報告

令和3年度は、全国的にも新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、不安定な雇用にある方やひとり親世帯など、生活基盤の脆弱な方々の生活課題・福祉課題が深刻化、複雑化してきた年でした。そして、コロナ禍において人と人とが互いに距離を取り、触れ合う機会を減らすことが求められ、地域住民等による地域福祉活動やボランティア活動の休止や活動自粛が余儀なくされた年でもありました。そのような今を生きる私たちに多くの試練と知恵が求められています。考え方の転換や活動の工夫、そしてこれまでの経験を活かすなどし、住民の理解と協力により、つながりを深め「互助・共助の力」を見出していくことができました。

また、令和3年度は、第3次能美市地域福祉活動計画の推進にかかる最終年度であり、同時に第4次計画の策定の年度でもありました。3次計画4年間の推進のまとめ、そして、令和4年度からの5年間の取り組みの協議を進める中で、新たに策定する計画は、行政計画である能美市地域福祉計画と同期させ、互いに連携を図りながら取り組むこととし、様々な議論の中から、地域住民、民生委員・児童委員、ボランティア、社会福祉法人、福祉施設、企業等と共に、地域福祉活動やボランティア活動を通じ、誰もがいきいきと安心して暮らせる「ともに生きる豊かな地域社会」を目指し、つながりづくりをすすめることができました。

法人運営においては、コロナ禍の中、予定していた役員等の県外視察研修をオンラインによるライブ配信研修会（いきがい・助け合いサミットin神奈川）に替え、実施しました。会員会費の募集については、感染症の状況を確認しつつ、昨年度に引き続き、9月から取り組み、「福祉のまちづくり」への理解と参加を働きかけました。能美市社会福祉大会についても、例年の能美市民ボランティアフェスティバルとの同時開催から形を変え、10月に単独での開催となりました。

また、広報活動として、社協広報誌やホームページに加え、新たにフェイスブックやインスタグラムを開設し、SNSによる福祉・ボランティアの情報発信の強化に取り組みました。

第3次能美市地域福祉活動計画の推進は4年目となり、1年前倒しさせ、最終年度でした。これまでの取り組みをもとに市が進める「地域共生社会」の各事業と連携しながら、推進する3委員会と進捗状況を確認するための「こころ豊かな地域づくりの会」の活動に取り組みました。進捗状況を市民に報告する機会である「春まちぼかぼかプロジェクト」は、コロナ禍の中において、多人数による開催は難しく、プログラムの規模の縮小、オンラインでも参加できるようハイブリッド形式で開催し、推進する3委員会の活動報告と「こころ豊かな地域づくりの会」を中心とした開催となりました。年度末に4年目及び3次計画4年間の評価委員会を開催し、各委員会からの自己評価及び今後に向けての視点と取り組みを確認しました。（評価委員会の評価は別途）

能美市から受託した「地域福祉委員会活動推進員養成・活動支援事業」、「生活支援サービス基盤整備事業」及び「地域力強化推進事業」は、地域福祉活動の基礎組織として、町会・町内会に設置された地域福祉委員会が、町会の中で生活上の困りごとの課題や個別の支援について話し合い、力をあわせて、見守りや助け合いの活動に取り組めるよう引き続き支援をしました。

いきいきサロンについては、コロナ禍の中、開催を中止せざるを得ない時期がありましたが、徐々に感染予防対策に工夫しながら再開されてきました。また、地域の見守り活動等の情報交換の場である地域福祉委員会は、少人数での開催となりましたが、担当職員（CSW＝コミュニティソーシャルワーカー 以下、「CSW」という）が、地域に出向き、課題の把握から、のみ地域力強化支援ファンドの申請につながるような地域活動の支援を行いました。

生活支援としては、賞味期限が残っている食糧をご寄付頂くフードドライブを開催し、支援を必要としている方々にお配りしたり、移送支援として地域福祉委員会へ車両つなぐ号を貸し出すなど、少しずつ住民レベルでの生活支援の芽がふくらんできました。

能美市から受託した「生活困窮者自立相談支援事業」では、生活に困窮する方々の相談支援の機関として、傾聴等による寄り添いやアウトリーチ、そして「家計改善支援員」による家計相談を併せて行い、他機関とのネットワークによる支援等に力を入れ、一人ひとりの状況に合わせた支援を行いました。また、地域の中で、孤立、閉じこもり、未就労、離職から生活困窮状態になっていく流れも見え、「ふれあい相談員」が、町会長、民生委員・児童委員と連携し実態把握等、安否確認を進めてきました。

新たに能美市から受託した「成年後見利用促進事業」は、成年後見制度の周知、利用に関する相談、及び権利擁護支援の地域連携ネットワークづくりに取り組み、市民に身近な相談機関としての体制を整えました。

一方、石川県社会福祉協議会から受託した「生活福祉資金貸付事業」では、令和2年3月から新型コロナウイルスの感染症の影響による休業や失業で生活資金にお悩みの方への生活福祉資金貸付制度の特例制度（緊急小口資金・総合支援資金）が実施され、その後、延長、再延長の貸付がなされたことを受け、市民の生活を支えるための相談、申請の支援を行い、現在も引き続き、市民からの相談に対応しています。

同じく石川県社会福祉協議会の受託事業である「福祉サービス利用援助事業」では、ケースを通じ、各地区あんしん相談センター、医療機関、消費生活相談室、弁護士、福祉事務所等の連携が更に進んできたところですが、今後は、成年後見制度との連携もしながら、支援を充実させていきたいと考えています。

ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営では、熊本県人吉市社会福祉協議会が実際に運営した災害ボランティアセンターの運営方法と事業継続計画 BCP について学びました。また、ボランティア講座では、若い世代への福祉教育を継続的に進める

中で、ジュニアボランティアクラブでは、専門性を活かして市内の社会福祉法人にも協力を頂き、明日を担う子供たちとその親世代に対して、ボランティア意識の醸成をはかることに取り組みました。

しかし、現在は、コロナ禍の影響を受け、ボランティア同士の交流や情報発信の機会でもある能美市民ボランティアフェスティバルの中止をはじめ、ボランティアグループの活動休止や自粛等が長引いており、センターに登録するボランティアグループ数も減少しています。交流の場、連携の場、学びの場等を工夫しながら開催し、人材発掘、人材育成に努めていくことが必要であると考えています。

市内3地区全域で、高齢、障がい、生活困窮等の包括的な相談を受ける体制が整う中、寺井あんしん相談センターの運営については、相談窓口として、精神障害、アルコール中毒、8050問題、支援拒否など多様で複合的な課題の相談が多く、くらしサポートセンターのみやCSW等と連携しながら個別支援の丁寧な対応や外出の機会が減った高齢者に対する介護予防の周知啓発に重点的に取り組みました。

能美居宅介護支援事業所については、職員2名体制の中、厳しい経営が続いていますが、質の高いケアマネジメントを提供できるよう努めてきました。各地区あんしん相談センターやくらしサポートセンターのみ等と連携を深めながら、困難ケースを積極的に受け入れ、社会福祉協議会の在宅サービスの一環として、地域の福祉に貢献することができました。

令和3年度は、コロナ禍の収束が見通せない中で、「地域のつながりづくり」という原点に戻り、いろいろな視点で考え、工夫して地域福祉活動やボランティア活動を推進してきた年であったように思われます。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、当初の事業計画を中止、変更せざるを得ない状況でありましたが、開催時期の変更や規模の縮小、参加者の人数制限、オンラインでの会議や研修内容等の工夫をしながら、行うこともできました。また、長引くコロナ禍の影響により、生活福祉資金の特例貸付への対応や生活困窮者への支援等、フードドライブ開催の生活支援等、これまでにないような生活課題にも対応し、新たなつながりづくりにも取り組みました。

コロナ禍というこれまでに経験したことのない厳しい経済、社会状況が長引いている中ではありましたが、これまでのノウハウをベースに、能美市が掲げる「共生社会の実現」の推進に寄与することができたことを報告します。

令和3年度における事業の状況は、次のとおりであった。

1. 住民参加・住民主体で地域福祉を推進する社会福祉法人の運営

(1)理事会、評議員会、各種委員会の開催

①理事会（4回）、評議員会（3回）、評議員選任・解任委員会（2回）、監査会（1回）をそれぞれ開催した。

会議名	開催回数	開催日	開催場所	案件	出席人数
理事会	第69回	6月3日	ふれあいプラザ	①令和2年度事業報告、会計計算書類及び財産目録の承認について (監査報告) ②理事候補者について ③任期満了に伴う次期役員候補者について ④任期満了に伴う評議員選任・解任委員会委員の選任について ⑤定時評議員会(第65回評議員会)の招集について	理事7名 監事2名
	第70回	6月24日	ふれあいプラザ	①会長の選定について ②副会長の選定について ③常務理事の選定について ④任期満了に伴う次期評議員の選任候補者の推薦について ⑤第11回評議員選任・解任委員会の招集について	理事10名 監事2名
	第71回	2月24日	ふれあいプラザ	①理事候補者について ②第66回評議員会の招集について ③評議員の選任候補者の推薦について ④第12回評議員選任・解任委員会の招集について	理事10名 監事2名
	第72回	3月18日	ふれあいプラザ	①第67回評議員会の招集について ②令和3年度会計収支1次補正予算(案)について ③令和4年度事業計画(案)及び会計収支予算(案)について ④福祉サービスに関する苦情解決の実施規程に基づく第三者委員候補者の選考について ⑤役員等賠償責任保険契約について	理事10名 監事2名

評議員会	第 65 回	6 月 24 日	寺井地区 公民館	①令和 2 年度事業報告、会計計算書類 及び財産目録の承認について (監査報告) ②理事の選任について ③任期満了に伴う次期役員の選任につ いて	評議員 15 名 監事 2 名
	第 66 回	3 月 4 日	辰口福祉 会館	①理事の選任について	評議員 17 名 監事 2 名
	第 67 回	3 月 25 日	辰口福祉 会館	①令和 3 年度会計収支 1 次補正予算 (案) について ②令和 4 年度事業計画 (案) 及び会計 収支予算 (案) について ③福祉サービスに関する苦情解決の実 施規程に基づく第三者委員の承認につ いて	評議員 15 名 監事 2 名
評議員 選任・ 解任委 員会	第 11 回	6 月 30 日	ふれあい プラザ	} 評議員の選任	委員 5 名
	第 12 回	3 月 14 日 (書面表決)	ふれあい プラザ		
監査会	5 月 24 日		ふれあい プラザ	令和 3 年度監査	監事 2 名

②第 3 次能美市地域福祉活動計画の推進委員会及び評価委員会等を開催した。

ア 推進のための委員会

- ・こころに寄り添い合う人づくり委員会・・・10 回開催
- ・見守り・助け合い推進委員会・・・10 回開催
- ・くらし応援委員会・・・10 回開催

イ 進捗状況を確認し合うための委員会

- ・こころ豊かな地域づくりの会・・・4 回開催

ウ 年度ごとの推進状況を評価するための委員会

- ・評価委員会・・・2 回開催

③第 4 次能美市地域福祉活動計画の策定・・・策定委員会・策定検討会 4 回開催

④表彰審査会の開催 (社会福祉功労者等表彰・能美たすかったわ〜大賞・“きらり★福祉の魅力” フォトコンテスト) 各 1 回開催

(2) 会員会費の募集

コロナ禍を考慮し、9 月から 12 月まで会員会費の募集に取り組み、まちぐるみで地域福祉活動を進める気運を盛り上げた。・・・資料 1

(3)社会福祉大会の開催

第17回能美市社会福祉大会を開催し、地域福祉活動に功績のあった個人や団体に社会福祉功労者等表彰を授与し、地域ぐるみの福祉意識の気運を盛り上げた。

日 時：10月15日（金）14時30分～15時30分

会 場：辰口福祉会館

社会福祉功労者等表彰を22名3団体に授与

参加者：65名（コロナ禍のため、被表彰者と理事・監事・評議員とした）

(4)春まちぽかプロジェクトの開催(2月19日(土)～27日(日)の9日間)

①第3次能美市地域福祉活動計画の4年間のまとめの報告と協賛事業を開催した。

（感染予防対策のため、会場定員を設けオンラインを活用し開催）

②パネル展示「笑顔でつながろう！」を前期・後期に分けて、市内2会場にて開催した。（能美市ボランティア連絡協議会、のみ社会福祉法人連絡会、ジュニアボランティアクラブ）

③「能美たすかったわ～大賞」は、大賞1点、一般の部優秀賞4点、小学生の部優秀賞5点を表彰した（応募総数1082作品）

「“きらり★福祉の魅力” フォトコンテスト」は、最優秀賞1点、優秀賞2点、審査委員特別賞1点を表彰した。（応募総数71作品）

④フードドライブを実施した。

⑤ぽかぽかコンサート(老人福祉センター2館で各1回)を開催した。

(5)福祉、ボランティア情報の発信

①広報誌「ほほえみ」(年4回) ほほえみ64号から67号を発行した。

②地域福祉・ボランティア活動報告集を発行した・・・資料2

③ホームページの他、新規にフェイスブック・インスタグラムを開設、随時更新し運営した。

④支え合う福祉のまちづくり講座を開設した。

(6)愛の福祉基金事業の実施

市民の善意による寄付金（6件総額683,200円）を愛の福祉基金として積み立てた。

2. 社会福祉関係者が一丸となった地域福祉活動への支援

3. 福祉意識の醸成のための福祉教育の推進と住民の互助活動の支援

(1)福祉関係者が行う地域福祉活動への支援(コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置)

①地域福祉委員会

1	地域福祉委員会への支援	根上地区 21ヶ所 寺井地区 23ヶ所 辰口地区 47ヶ所	91ヶ所	市内全町(内)会に設置済み。
	活動ヒント探し講座「入門編」の開催	9月15日 ～11月26日 (全4回)	地域福祉に対する理解のための入門的研修及び実習	16町(内)会より、講座受講修了者23名を地域福祉委員会活動推進員に登録した。 ※登録累計386名
	活動ヒント探し講座「実践編」の開催	9月16日 ～12月7日 (全3回)	各町(内)会で地域の課題把握のための手法として「住民流支え合いマップづくり」を行った。	地域福祉委員会活動推進員のいる4地域・地区福祉委員会が受講した。参加者は14名(※湯屋町, 緑が丘1, 緑が丘5, 緑が丘9)
	「活動推進会議」の開催	①9月15日～30日 「地域福祉委員会活動連絡会」 会場：ふれあいプラザ ②2月23日 「地域福祉セミナー」 会場：辰口福祉会館	①地域福祉委員会における見守りや助け合い活動の意義について理解を深めた。 ②地域福祉委員会における助け合い活動の拡充と周知、啓発のため、見守り・助け合い推進委員会委員による寸劇と活動を紹介した。	①会場65名参加 オンライン20名参加 ②会場40名参加 オンライン7名参加 令和3年度に実践編を修了した地域福祉委員会76地域(地区)福祉委員会
2	いきいきサロン活動への助成 ※いきいきサロンとは町(内)会、単位で行われている高齢者等の閉じこもりの予防や見守りのつどい	根上地区	設置数20ヶ所 延べ参加者数1,677名 延べボランティア数548名	開催回数105回
		寺井地区	設置数22ヶ所 延べ参加者数2,699名 延べボランティア数718名	開催回数246回
		辰口地区	設置数37ヶ所 延べ参加者数2,266名 延べボランティア数544名	開催回数132回
		会員会費を財源とし、いきいきサロン79ヶ所へ、 総額2,538,500円を助成		

	一人暮らし高齢者 昼食会への助成	地域福祉委員会（いきいきサロン）が自治 公民館等を会場に開催する一人暮らし高齢 者昼食会に対し、助成した。		実施町(内)会 23 町(内)会 参加者数 203 名 対象者 1 名あたり 700 円 を助成、 総額 142,100 円を助成
	おでかけサロンへの 助成	地域福祉委員会（いきいきサロン）で一人 暮らし高齢者を含む参加者同士が、交流し ながらおでかけする機会に対し、助成し た。		実施町(内)会 5 町会 実施回数 5 回 参加者数 延べ 84 名 1 町(内)会年 3 回まで 7,500 円を助成、 総額 37,500 円を助成
3	いきいきサロンボラ ンティアと福祉推進 員合同研修会の開催	3 月 29 日（火） 会場：ふれあいプラザ	テーマ： ふくし×ICT 活用 入門講座	参加者 17 名
4	福祉推進員の研修	・研修に向けて福祉推進員連絡会を 1 回開催 ※いきいきサロンボランティア研修会と 合同開催		活動費 1 人当たり 5,000 円 128 名 総額 640,000 円を助成
5	地区担当職員 （CSW・ふれあい相 談員兼ねる）8 名の 配置（兼務） ※地区担当制	ア 開催の案内のあった地域福祉委員会の会合 493 回の内、要請に応 じ CSW は 109 回出務した。 イ 市内で気になる方のいる世帯へ、地区の民生委員・児童委員や、 あんしん相談センター及びくらしサポートセンターのみの職員等 と同行訪問や、連絡するなど CSW は 19 回行った。		

- ②市及び 3 地区の民生委員児童委員協議会の事務局を担当し、活動を支援した。
③福祉団体（市・3 支部の老人クラブ連合会、市・3 支部の身体障害者福祉協
会、市母子寡婦福祉連合会）の各事務局を担当し、活動を支援した。
地域福祉活動を推進するグループや団体の事務局を担当し、活動を支援した。

- ・まだまだ元気な高齢者サポートグループほがらか会（会員数 28 名）
※ほがらか会は、能美市の総合事業の通所 B（住民主体の通いの場）にあたる活動
ボランティア養成講座や研修会の開催 2 回

ほがらか会の開催状況は以下のとおり

	施設名	開催日と開催回数	延べ参加者数	延べボランティア数
根上会場	白寿会館	毎週木曜日・44 回	225 名	182 名
寺井会場	亀齢荘	毎週金曜日・43 回	164 名	88 名
辰口会場	辰口福社会館	毎週火曜日・45 回	162 名	97 名

- ・能美市民防災ネットワーク（委員 18 名）＋オブザーバー 1 名
※町会・町内会、壮年団、婦人会、民生委員・児童委員、防災士、子育て支援団体等による
ネットワークの会。防災意識の醸成や啓発、助け合いを基盤とした災害時の災害ボランテ
ィアセンターの周知などを目的とした活動を行う。

定例会 5 回

研修会及び委員のスキルアップ研修会 2 回

④のみ社会福祉法人連絡会の事務局を担当し、活動を支援した。

※新たに1社会福祉法人が加入し、市内9法人で組織。社会福祉法人が地域福祉の担い手として地域の福祉ニーズの解決のため、それぞれの専門性を活かしながら、連携して地域公益活動に取り組むことで、地域福祉の増進に寄付することを目的として活動を行う。

会員：市内9社会福祉法人(喜峰会、泰耀、湯寿会、なごみの郷、南陽園、陽翠水、佛子園、めばえ保育園(R3新規加入)、能美市社会福祉協議会)

(2)見守りネットワークの推進

ふれあい弁当を実施した。

- 一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯等に対し、のみ社会福祉法人連絡会の会員法人が調理する「ふれあい弁当」を民生委員・児童委員、福祉推進員等が配達することにより、見守るための訪問の機会につなげた。(1食200円)

実施回数：月2回(第1・3水曜日)3地区合計66回実施

根上地区	利用実人数	12名
	延べ提供食数	199食
	延べ協力ボランティア数	126名
寺井地区	利用実人数	25名
	延べ提供食数	394食
	延べ協力ボランティア数	217名
辰口地区	利用実人数	17名
	延べ提供食数	305食
	延べ協力ボランティア数	228名

※1月分のお弁当には福梅を添え、利用者にお正月の雰囲気味わってもらった。

※中学生のボランティア活動をして弁当を配達する「ふれあい訪問」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

- 産前・産後2カ月までの方がいる核家族世帯に対し、のみ社会福祉法人連絡会の会員法人が調理する「子育て応援弁当」を主任児童委員が配達することにより、子育てを地域で応援した。

実施回数：第1～4水曜日、第2・4金曜日 年間66回

利用料：1食250円 3食目350円

利用実績：延べ提供食数 845食 利用実人数 29名

延べ協力ボランティア数 166名

(3)ふれあいの場や交流の場づくりの推進

①親子サロン(親子がふれあう場づくり)を開催した。

市内3会場で、就学前の子どもとその親・祖父母等が、気軽にふれあい、ほっとできるような集う場を運営した。子育て経験をもつ市民6名をスタッフとして雇用し、経験を活かしてママ友相談も併せて行う機会もつくった。

	施設名（会場）	開催日と開催回数	延べ参加者数
根上会場	西二口町公民館 (西二口コミュニティセンター)	毎週水曜日・34回	87名・43組の親子
寺井会場	粟生コミュニティセンター	毎週木曜日・33回	268名・123組の親子
辰口会場	岩内コミュニティセンター	毎週火曜日・35回	180名・87組の親子
通常の親子サロンの拡大版となる絵本カフェやのみん広場はコロナ禍で企画したが中止			

- ・ほっとあんしんサロン（介護をしている（していた）方々の思いを語り合う場づくり）を開催した。
介護者の日頃の介護に対する思い、老年期を迎える不安等について、思いを語り合う機会として、年7回、毎月第2水曜日にふれあいプラザで開催した。能美市介護を考える会の協力を得て開催、延べ参加者は61名であった。
- ・福耳ネット、ぬくもりサロン（聴覚・視覚等コミュニケーションに不都合な方がふれあい集う場づくり）を開催した。

サロン名	開催日・開催回数	会 場	延べ参加者数	内 容
聴覚に不都合のある方のつどい 「福耳ネット」	第4水曜日 年10回	寺井地区公民館	41名	交流と情報交換 手話サークル めだかの協力
視覚に不都合のある方のつどい 「ぬくもりサロン」	10月11日 11月17日 12月21日 1月12日	ふれあいプラザ 能美市防災センター ふれあいプラザ ふれあいプラザ	24名	交流と情報交換 ボランティア ほおずきの協力

②ふれあい福祉交流会は中止した。

※レクリエーションを通じ、障がいや認知症の有無にかかわらず、ふれあい交流する場

福祉関係団体による実行委員会準備会において、コロナ禍のために中止を決定

③福祉バスの貸出

福祉バス1台を地域福祉委員会いきいきサロンが実施する一人暮らし高齢者等のおでかけサロン等、外出の機会を支援した。（貸出：22回）

④こころに寄り添い合う人づくり講座（こころに寄り添い合う人づくり委員会主催）

月 日：2月23日（火・祝）

会 場：ふれあいプラザ

内 容：精神に障がいのある方や、発達障がい児を育てる母親の思いを聞き、こころに寄り添い合う意識づくりの機会とした。

参加者数：46名

(4)生活支援体制の基盤整備の推進(生活支援コーディネーター7名の配置)

①1層（市全体を単位とする）生活支援コーディネーター1名

②2層（中学校区を単位とする）生活支援コーディネーター6名の計7名を配置し、地域での生活支援の取り組みを進めた。市生活支援サービス推進協議体と連携。

地区別2層生活支援コーディネーター会議 26回

1、2層生活支援コーディネーター会議 3回

③フードドライブの実施

生活困窮や支援を必要な子育て世帯等への支援としてフードドライブを実施した。寄付された食品は、支援を必要としている方や子ども食堂へ渡した。

フードドライブの実施：4回（7, 10, 12, 2月） 計 3,184品の寄付

④つなぐ号貸出事業の実施（買い物や外出支援活動の支援）

町(内)会(地域福祉委員会)の買い物・外出支援の活動を対象に、本会が借り受けた市商工まちづくり研究会所有の車両と、能美市より生活支援車両の運営を受託し、合わせて2台を貸し出した。

貸出先：粟生リンクの和、下開発町つながりの会

貸出実績：56回

延べ利用者：165名

(5)ボランティア・コミュニティ活動支援センターの運営(ボランティアコーディネーターの配置)

ボランティア・コミュニティ活動支援センターを運営し、福祉の人づくりや地域づくりを進めた。ボランティアセンターだよりもホームページにて、ボランティア情報を発信した。

①ボランティアに関する相談窓口

〈登録〉 91グループ 3,359名 (R4.3.31現在)

〈相談・斡旋〉 39件

〈ボランティア機材の貸出〉 37件

	貸出内容	機 材	件数
1	町(内)会のふれあい行事 (いきいきサロンを含む)	綿菓子・ポップコーン・かき氷製造器・ プロジェクター、ストラックアウト等	25
2	学校等での福祉体験	車いす	8
3	ボランティアグループの活動	アンプ、マイク、DVD	3
4	福祉施設	車いす・輪投げ	7
5	その他、個人への貸し出し	車いす	3
6	要介護の移動	車いす	7
	合 計		53

〈各種の収集窓口（ボックス）の設置〉

老人福祉センター「白寿会館」、老人福祉センター「亀齢荘」、G-Hills、ふれあいプラザに収集窓口としてボックスを設置した。

収集物	収集取扱い団体	送付先	用途
プルタブ	能美市社会福祉協議会 ボランティア・コミュニティ活動支援センター	令和3年度に集めたプルタブは、合計105kg 金属廃品回収業者に売却、換金し、施設等に福祉 用具を寄贈するための資金として積み立てた。	
ベルマーク	ボランティアグループ 「山ぼうしの会」等	ベルマーク財団へ	ベルマークは1点1円になる。一部は発展途上国の教育支援に使われ、一部が集めた地域の学校教育備品の購入に使われる。

使用済インクカートリッジ	石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター	キャノン・エプソン・リコーなどの企業へ	使用済インクカートリッジの回収を通じて、ベルマーク運動に参加。用途はベルマークと同じ。
古切手、書き損じハガキ		公益財団法人ジョイセフ（家族計画国際協力）へ	アジア・アフリカ中南米の発展途上国の保健活動（予防接種や保健師の活動）の助成に使われる。
使用済プリペイドカード等			

※エコキャップについて・・・令和2年12月1日より、エコキャップの受け入れ先は「株式会社日本海開発」となり、直接、各自が持ち込むことを周知した。

②福祉教育の推進及び福祉の人材育成のために、各種ボランティア講座を開催し、ボランティアへの関心を掘り起こし、その活動を支援した。

事業（講座）名	実施月・回数	参加人数	内 容
ジュニアボランティアクラブ・・・資料3	10～12月 (全4回)	小学生とその保護者 計 42名 延べ 118名	市内社会福祉法人の協力を得て企画 ・ボランティア入門 ・高齢者や障がいのある方を支える施設での取り組みや実際に交流するときの接し方等を学ぶ。 ・障がいのある人のお話を聞く ・「ユニバーサルデザイン・バリアフリー」を学ぶクイズラリー ・障がいのある方たちと「ボッチャ」で交流 ・歳末助けあい募金と活動のふりかえり
中学生ボランティアチャレンジ体験	10～12月		中学校生徒会が自分たちで体験を企画 【根上中学校】 ① コンタクトケースの回収運動 ② 赤い羽根共同募金運動 【寺井中学校】 ① 赤い羽根共同募金運動 ② コンタクトケースの回収強化運動 【辰口中学校】 ① 収集ボランティアについて学ぶ ② エコキャップ、プルタブの収集運動、赤い羽根共同募金運動
高校生ボランティアチャレンジ体験	10～11月	延べ 56名	① 高校生ボランティアチャレンジの意義を知る ② 笑いヨガを用いた軽体操の練習 ③ 軽体操のDVD 撮り ④ 寺井町中町敬老会へ出前講座

企業ボランティア セミナー	3月10日	4名	(株) ヴァケーション能美支店 「いま、なぜフードドライブに取り組む必要があるのか」を理解し、フードドライブを通じた助け合い活動のしくみについて理解を深めた。
------------------	-------	----	--

- ・福祉協力校に指定、活動助成をした。
- ・市内6小学校（2校は県社協指定校）、3中学校、1高等学校を対象とし、総額860,000円を助成した。
- ・福祉協力校連絡会を開催した。
日 時：2月14日（月）13時30分～15時00分
会 場：能美市ふれあいプラザ 第2会議室
オンライン会議システム Zoom ※ハイブリット形式で開催
参加者：27名
講 演：「地域共生社会とは ～みんなちがってみんないい～」
講 師：富山国際大学 子ども育成部 教授 村上 満氏
- ・福祉協力校における福祉教育カリキュラムなどに情報提供するなどし、支援した。（講師の派遣、情報提供）

- ③市ボランティア連絡協議会の活動を事務局として担当、支援した。
（能美市ボランティア連絡協議会情報誌「ボラはあと」の年2回発行支援含む）
ボランティアグループ9グループの活動に対し計309,000円を助成した。
（要件有：共同募金財源による）

かが能美掃除に学ぶ会(50,000円)、辰口地域更生保護女性会(27,000円)、手話サークルゆず(14,000円)、能美要約筆記サークルみみずく(20,000円)、舞踊集団菊の会(13,000円)、粟生町歩歩笑美くらぶ(35,000円)、中庄町丸いも倶楽部食育グループ(50,000円)、のみ♡子育てネットワーク(50,000円)、オカリナ倶楽部九谷まほろば(50,000円)

- ④災害ボランティアセンター立ち上げ運営にかかる研修や訓練を行った。
BCP（災害時に備える社会福祉協議会の福祉的事業継続計画）や、コロナ禍による感染予防対策等について、職員間で共通認識し、体制整備について研修した。
日 時：1月22日（土）10時～12時
会 場：ふれあいプラザ
参加者：27名
講 演：「コロナ禍での災害ボランティアセンターの運営について考える」
講 師：人吉市社会福祉協議会（熊本県）
主任相談支援員・福祉活動専門員 横井 祐一郎 氏

⑤第14回能美市民ボランティアフェスティバルは中止した。

ボランティア等による実行委員会準備会において、コロナ禍のために中止決定。しかし、その代わりとして、ボランティア等活動紹介に限定したパネル展示「笑顔でつながろう！」を開催した。(春まちぼかぼかプロジェクトの協賛事業)

[前期] 日 時：2月19日(土)～25日(金)10時～16時

会 場：能美ふるさとミュージアム

[後期] 日 時：2月26日(土)～27日(日)10時～15時30分

会 場：辰口福社会館

前後期合計参加者：250名

⑥一人暮らし高齢者等へ傾聴ボランティアを派遣した。

傾聴ボランティアの訪問	石川県が、H23年度に開催した傾聴ボランティア養成講座の受講修了生が、能美市で傾聴ボランティアとして登録、活動した。また、傾聴ボランティア「うなづき」の年間2回の専門研修や連絡会の実施を支援した。	訪問対象者は6名 (一人暮らし高齢者等) 登録した傾聴ボランティアは25名 年間40回訪問
-------------	--	--

⑦視覚障害のある方へ広報「のみ」等の音訳テープを提供した。

音訳テープの提供	視覚に不都合のある方に対し、音訳ボランティアたんぼぼの協力を得て、広報のみ、議会だより、社協広報誌ほほえみをテープに音訳、提供した。	利用者 1名 その他図書館などへ提供
----------	--	-----------------------

4. 生活上の多様な問題の相談窓口の開設及び生活支援サービスの提供

(1)寺井あんしん相談センターの運営・・・別記1 P.15～P.18

(2)くらしサポートセンターのみの運営・・・別記2 P.19～P.24

5. 居宅介護支援事業所の運営

6. 老人福祉センターの管理運営

(1)能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所の運営・・・別記3 P.25～P.27

(2)老人福祉センター白寿会館の管理運営

(3)寺井老人福祉センター亀齢荘の管理運営

①老人福祉センター(老人福祉センター「白寿会館」・寺井老人福祉センター「亀齢荘」)を運営した。運営状況は以下のとおり

	開館日数	延べ利用者数
白寿会館	257日	15,316名
亀齢荘	330日	31,365名
計		46,681名

【能美市寺井あんしん相談センターの運營業務報告】

1. 総括

高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者などの総合相談窓口の拠点となれるよう、あんしん相談センターの事業の運営を能美市より受託し、相談に応じ、支援した。また、自立支援・重症化予防を基本とした介護予防プランの作成及び、能美市地域包括ケアシステムの構築を推進した。

2. 事業状況

① 総合相談支援業務

- ア 高齢者をはじめ、障がい者や生活困窮者などの相談に応じ、関係機関に繋いだ。
- イ 複数の課題を抱える世帯に対し、関係機関と連携、課題を共有すると共に、必要に応じてケア会議を開催し、課題解決に向けての支援の方向性を検討した。

② 権利擁護業務

- ア 成年後見制度・権利擁護に関する相談に応じ、くらしサポートセンターのみと連携し、成年後見制度の広報・周知を行い、成年後見制度や福祉サービス利用援助事業の利用に繋げた。
- イ 高齢者虐待については、相談12件中、9件を能美市の虐待判定会議に繋ぎ、虐待対応計画に基づいて対応した。また、虐待通報がされにくい中、総合相談の段階からアンテナを立て、早期発見を心掛け、成年後見制度の相談等も併せて、権利侵害の防止や早期対応に努めた。

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援

- ア 各地区あんしん相談センターが連携してケアプラン会議を開催し、自立支援を目的としたプランの検討及びプランを作成する介護支援専門員に対し支援・指導をした。また、介護支援専門員が相談しやすい対応を心がけ、困難事例を一人で抱え込まないよう支援し、相談に応じ、必要時、センター内で討議を図り、困難事例検討会や支援チーム会議の活用提案、地域ケア会議の開催等に繋げるなどした。
- イ 地域における連携・協働の体制づくりのため、地域ケア会議を手法とし、個人や地域の課題を発見し、地域づくりに繋がるよう話し合いをした。また、民生委員・児童委員や町会長等の地域の方と、医療や介護の専門職、CSWなど多職種の関係機関とのネットワーク作りを推進した。

④ 介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント支援業務

- ア 要介護者や事業対象者が、主体的に介護予防・自立支援に取り組むために、自己選択、決定できるよう配慮しながら介護予防プランを作成し、支援した。
- イ 一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業である、「おげんき倶楽部のみ」

や「のみ活倶楽部」に出向き、参加者の状況を把握するとともに、介護予防の普及啓発に取り組んだ。地域主催の会に関してはコロナ禍であったため、出向くことは控え、必要時、出前講座等の開催で実態把握を行った。

⑤ 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み

- ア 地域生活医療コーディネーター、第二層生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員、地域ケア会議推進員関係にそれぞれ担当職員を配置するとともに、在宅医療と介護連携の充実を推進する専門部会「メモリーケア・ネットワーク能美」、強い互助づくりの支援体制を構築する専門部会「生活支援サービス推進協議会」と連携し、積極的に課題に取り組んだ。
- イ 寺井地区を単位とした日常生活圏域会議を1件、関係機関を単位とした課題別検討会議を52件、個別のケースに関する関係者が参加するネットワーク会議を56件開催した。日常生活圏域会議では、あんしん相談センターの活動報告を行い、相談内容からみえてきた課題について報告し、コロナ禍での今後の支援に繋げることを圏域関係者で確認した。
- ウ 地域での出前講座5件、認知症サポーター養成講座1件、開催し、介護予防に対する啓発、理解を広げた。

⑥ 職員の資質向上

石川県、能美市、各職能団体等が実施している研修会に積極的にオンラインにて参加した。研修参加後は復命書を回覧することでセンター職員全員が共有し、必要な知識や技法等の取得に努めた。

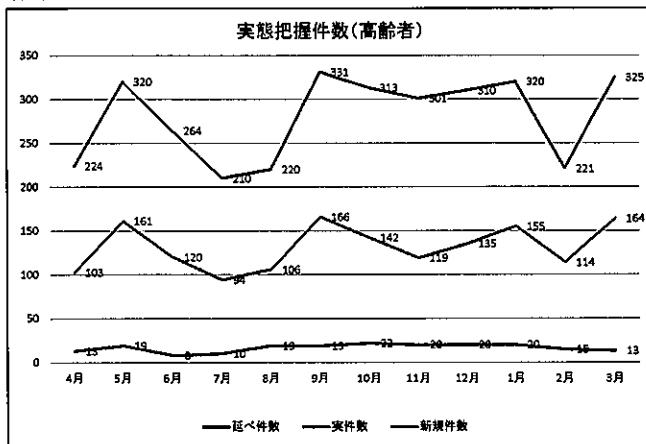
⑦ コロナ禍での取り組み

- ア コロナ禍で起こっている虚弱と思われる方に対して、フレイル予防のためのリーフレットを作成し、出前講座や地域福祉委員会、個別訪問時に活用した。
- イ 新型コロナウイルス感染症感染予防やフレイル（虚弱）予防に関する出前講座を行った。フレイル予防チラシを添えて配布し、介護予防の周知、意識啓発を図った。
- ウ 地域福祉委員会等の地域の会に参加し、コロナ禍による地域の状況を把握、共有するとともに、高齢者等の相談を繋いでいただけるよう協力を依頼し連携を図った。
- エ 新型コロナウイルス感染症に対しては、職員が感染予防対策を徹底した。

令和3年度 能美市寺井あんしん相談センター 実績報告

1. 実態把握件数（高齢者・64才以下介護相談含む）

	延べ件数	実件数	新規件数
4月	224	103	13
5月	320	161	19
6月	264	120	8
7月	210	94	10
8月	220	106	19
9月	331	166	19
10月	313	142	22
11月	301	119	20
12月	310	135	20
1月	320	155	20
2月	221	114	15
3月	325	164	13
合計	3,359	1,579	198
前年度	2,456	1,280	168



2. 実態把握・相談の状況（高齢者・64才以下介護相談含む）

	窓口	電話	訪問	高齢者福祉訪問	その他	合計
4月	40	115	52	7	10	224
5月	40	160	105	4	11	320
6月	36	157	57	3	11	264
7月	36	124	31	1	18	210
8月	45	121	42	1	11	220
9月	54	149	115	3	10	331
10月	46	162	84	1	20	313
11月	49	150	81	3	18	301
12月	57	164	73	1	15	310
1月	67	161	73	3	16	320
2月	47	121	41	1	11	221
3月	45	169	95	1	15	325
合計	562	1753	849	29	166	3,359
前年度	425	1,310	614	集計なし	107	2,456

業務集計変更

3. 地域活動支援・出前講座の状況

	地域活動支援	出前講座	認知症サポーター養成講座
4月	10	0	0
5月	0	0	0
6月	3	0	0
7月	4	0	0
8月	4	0	0
9月	3	2	0
10月	9	0	0
11月	7	1	0
12月	4	2	1
1月	2	0	0
2月	2	0	0
3月	4	0	0
合計	52	5	1
前年度	45	4	0

4. 地域ケア会議（高齢者を含む障がい者、困窮者等）

	日常生活圏域会議	課題別検討会議	ネットワーク会議
4月	0	4	3
5月	0	3	2
6月	0	6	6
7月	0	4	3
8月	0	4	4
9月	0	3	3
10月	0	7	5
11月	0	3	7
12月	0	5	11
1月	0	4	1
2月	0	3	3
3月	1	6	8
合計	1	52	56
前年度	1	43	29

5. 連絡調整業務の状況

	介護認定申請受付	高齢者福祉に係る受付	住宅改修・福祉用具に係る受付
4月	19	18	6
5月	25	4	5
6月	21	7	6
7月	27	4	3
8月	22	1	1
9月	31	3	6
10月	29	2	4
11月	24	8	6
12月	21	2	11
1月	14	4	8
2月	23	1	3
3月	30	16	6
合計	286	70	65
前年度	265	48	70

6. 介護予防支援

	直営プラン	外部委託プラン	委託料支払額 (A)	合計プラン件数	合計収入額 (B)	センター収入 (B) - (A)
4月	22	41	174,230	63	288,570	114,340
5月	20	43	185,490	63	285,570	100,080
6月	21	42	186,260	63	294,570	108,310
7月	23	43	182,490	66	301,740	119,250
8月	21	42	173,460	63	282,570	109,110
9月	21	42	183,260	63	291,570	108,310
10月	21	43	187,390	64	295,320	107,930
11月	21	47	213,710	68	324,840	111,130
12月	19	45	200,550	64	298,320	97,770
1月	21	47	199,010	68	309,840	110,830
2月	20	45	190,750	65	293,700	102,950
3月	21	45	195,650	66	301,080	105,430
合計	251	525	2,272,250	776	3,567,690	1,295,440
前年度	208	525	2,169,700	733	3,222,230	1,052,530

7. 介護予防ケアマネジメント

	直営プラン	外部委託プラン	委託料支払額 (A)	合計プラン件数	合計収入額 (B)	センター収入 (B) - (A)
4月	19	14	47,450	33	104,790	57,340
5月	20	16	52,710	36	112,290	59,580
6月	21	16	55,320	37	122,180	66,860
7月	20	16	50,420	36	120,290	69,870
8月	20	15	58,700	35	113,150	54,450
9月	23	15	48,900	38	114,820	65,920
10月	23	14	49,670	37	121,810	72,140
11月	23	14	44,770	37	115,560	70,790
12月	21	14	44,770	35	103,800	59,030
1月	21	14	44,770	35	107,050	62,280
2月	15	13	48,150	28	87,390	39,240
3月	17	13	43,250	33	90,650	47,400
合計	243	174	588,880	420	1,313,780	724,900
前年度	231	113	373,720	344	1,146,620	772,900

8. 介護予防ケアマネジメント 内訳

	スマイルヘルパー / スマイルデイサービス	健康ライフ教室 / 健康ライフ訪問リハビリ	あんしんサポーター / はつらつデイサービス	たすけあいサポーター / ほがらか会
4月	8	5	15	5
5月	10	5	16	5
6月	11	7	12	4
7月	11	7	13	4
8月	11	6	14	4
9月	12	6	16	4
10月	11	7	15	4
11月	11	8	14	4
12月	11	6	15	3
1月	12	4	15	4
2月	10	3	12	3
3月	10	3	13	4
合計	128	67	170	48
前年度	111	72	117	45

9. 障がい者や生活困窮者(64歳以下)の相談の状況

業務内容	件数	前年度
障がい者の相談(延)	243	127
生活困窮の相談(延)	33	35
支援チーム会議参加・地域ケア会議開催	7	4

【くらしサポートセンターのみ 事業報告】

1. 総括

様々な問題により日常生活を送ることが困難に感じている方などに対し、生活困窮者自立相談支援事業を軸として、各種の相談事業と一体的に取り組み、社会的孤立者や経済的に困窮する恐れのある方が、困窮状態からの早期の脱却や権利を守られながら、住み慣れた地域で安心、安全に生活できることを目標に、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援を実施した。

2. 事業状況

①生活困窮者自立相談支援事業

ア 自立相談支援事業の実施

生活困窮者の困りごとに関する相談に幅広く応じ、相談者の状況に合わせた自立に向けた支援計画を作成し、就労支援を行う等、伴走による支援を行った。また、生活状況に応じてフードドライブの食糧を配付し、生活が維持できるよう支援した。

イ 家計改善支援事業の実施

家計に問題を抱える世帯に対し、相談者とともに家計の状況を明らかにして課題を把握し、家計の改善の意欲を引き出せるよう相談支援を実施した。

ウ 支援調整会議を毎月開催し、関係者による支援計画の検討、情報共有、連絡調整を行った。

エ 民生委員・児童委員等の地域の支援者や、あんしん相談センター、相談支援事業所、居宅介護支援事業所等の地域の様々な関係機関と連携し、ネットワークづくりに取り組んだ。

②福祉サービス利用援助事業

高齢や障がいなどで判断能力に不安のある方や日常生活に不安のある方が、地域で安心して生活ができるように、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭の管理等を支援するとともに、必要に応じて関係機関と連携を図った。また、利用者の状態の変化により支援が困難になったときには、成年後見制度の利用の移行支援を行った。

③生活福祉資金貸付事業

ア 所得が少ない世帯、障害者世帯、高齢者世帯、失業された方等が安定した生活が送れるように、資金の貸付に関する必要な相談支援を行った。

イ 新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少し生活に困窮する方に対して、生活福祉資金の特例貸付の相談窓口を設置し、相談支援を行った。また、相談の中から生活困窮者自立相談支援事業に繋げ、困窮状態から脱却できるよう支援した。

④歳末お見舞金の贈呈

歳末時にあたたかいお正月を迎えられるよう、歳末助け合い募金の配分金を財源とし、福祉施設入所者等の方々に、民生委員・児童委員の協力を得てお見舞金をお贈りした。

⑤弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

弁護士や行政書士が、日常生活の中で起きる法律に関わる問題について、無料で相談に応じた。

⑥心配ごと相談所の運営

民生委員・児童委員や人権擁護委員、行政相談委員が相談員として、市民の日常生活上のあらゆる相談に応じ、適切な助言、指導を行い、住民の福祉の増進を図った。

⑦成年後見制度利用促進事業

ア 認知症や知的障害、精神障害等で判断能力が不十分な方々の権利を擁護するために、中核機関として成年後見制度の周知、利用に関する相談支援を行った。また、制度利用後も後見人等へのバックアップ体制として活動支援を行った。

イ 福祉・医療に携わる専門職に対して研修会を開催し、成年後見制度の理解を深めるとともに、連携強化に努めた。

ウ 成年後見制度利用に関する実態調査を行った。

エ 地域や福祉、医療、金融、行政に司法を加えた、多様な分野・主体が連携する、権利擁護支援の地域連携ネットワークづくりを目的とした会議（能美市成年後見地域連絡協議会）を開催した。

日 時：令和4年3月17日（木）14時～15時30分

会 場：能美市ふれあいプラザ

出席者：23名

内 容：成年後見制度に関する市の指針説明、中核機関の実績報告、意見交換等

⑧福祉移送サービスの運営

公共交通機関を利用しにくい方の移動を車いす対応車で支援した。（要件有）

⑨生活支援たすけあい・ライフサポーター（介護予防・日常生活支援総合事業のうち、訪問型サービスB（住民主体による援助））の派遣

ア 1～6期受講修了生による「たすけあい・ライフサポーターえがお会」の研修会等、その活動を支援した。

イ 依頼に応じて「たすけあい・ライフサポーター」を派遣した。

令和3年度 くらしサポートセンターのみ 実績報告

① 生活困窮者自立相談支援事業

- ◎ 自立相談支援事業プラン作成件数 10件
- ◎ 家計改善支援事業プラン作成件数 5件
- ◎ 相談件数

	新規件数	実件数	延べ件数
4月	15	46	118
5月	19	46	117
6月	16	54	121
7月	11	47	105
8月	11	68	165
9月	7	38	99
10月	9	44	111
11月	9	61	162
12月	28	70	155
1月	13	62	161
2月	14	56	155
3月	27	79	188
合計	179	671	1,657

10代	1
20代	25
30代	15
40代	25
50代	34
60代	17
70代	16
80代	6
90代	1
不明	39

◎ 男女別内訳

男性	112
女性	67

② 福祉サービス利用援助事業

◎ 契約件数

認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	合計
24	2	6	1	33

③ 生活福祉資金貸付事業

- ◎ 能美市福祉資金 利用件数 10件
- ◎ 石川県生活福祉資金

資金の種類	件数
福祉資金・教育資金・緊急小口資金	36
総合支援資金	14
離職者支援資金	3
臨時特例つなぎ資金	2
合計	55

延べ相談件数	65
--------	----

◎ ≪新型コロナウイルス特例≫ 緊急小口資金・総合支援資金・・・別記2 資料

資金の種類	件数	決定金額
緊急小口資金	72	12,678,000円
総合支援資金	46	21,690,000円
総合支援資金(延長)	19	8,440,000円
総合支援資金(再貸付)	56	26,130,000円
合計	193	68,938,000円

延べ相談件数	513
--------	-----

④ 歳末お見舞い金贈呈事業

在宅対象者 200名 福祉施設入所者 82名

対象者総数	282
-------	-----

⑤ 弁護士・行政書士の無料専門相談等事業

◎弁護士無料法律相談

実施回数	36
利用件数	123

◎行政書士無料相談

実施回数	12
利用件数	40

⑥ 心配ごと相談所の運営

◎相談件数

	根上地区	寺井地区	辰口地区	合計
4月	0	0	0	0
5月	中止	1	中止	1
6月	1	中止	2	3
7月	0	1	0	1
8月	2	0	0	2
9月	2	0	0	2
10月	1	1	0	2
11月	0	1	0	1
12月	0	1	0	1
1月	0	0	1	1
2月	0	1	0	1
3月	0	0	0	0
合計	6	6	3	15

電話相談

⑦ 成年後見利用促進事業

◎相談件数

認知症高齢者等	知的・精神障害者等	その他	合計
13	4	8	25

⑧ たすけあいライフサポーター(訪問型サービスB)

◎利用件数

利用者数	派遣件数(延べ)
3	107

⑨ 福祉移送サービス

内容	実績
登録者数	24
延べ利用件数	107
稼働実日数	53

【 能美市社会福祉協議会能美居宅介護支援事業所 事業報告 】

1. 総括

事業所のケアマネジャーは社会福祉士、介護福祉士とそれぞれが持つ資格を活かし、各地区のあんしん相談センターやくらしサポートセンターのみ、各種関係機関等と連携を図りながら、処遇困難なケースにも積極的に取り組めた。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、利用者が自立した生活を送るため、意向を尊重しながら特定のサービス事業所に偏ることがなく、公正中立な支援ができた。

2. 運営状況

経営の改善を目指し、毎月定例で経営会議を開催したことにより、目標としていた請求件数を達成し、売上金額は目標を6%上回ることができた。

また、介護保険法及び関係法令の規定に基づき、能美市より介護保険施設等の実施指導を受け、「指摘事項は見受けられず、適正な運営ができています」と評価を得ることができた。

今後も引き続き関係機関と連携し、信頼関係を維持しながら顧客確保を図りつつ、引き続き業務の効率化を模索していく。

3. 事業状況

- ① 介護サービスに関する相談では、24時間携帯電話を輪番制で所持し、いつでも連絡が取れる体制を確保し、必要に応じ相談に対応した。
- ② 希望に沿ったケアプラン（居宅サービス計画）の作成では、利用者の心身の特性や置かれている状況を踏まえて、自立した日常生活が送れるように支援した。
- ③ 事業所の資質向上のため自己評価や、介護サービス情報の公表を実施した。また、能美市ケアマネジャー連絡会に参加することで地域のケアマネジャーとの情報共有や連携が図れた。研修については一部 Zoom 等を活用し、新型コロナウイルス感染対策を講じ、業務に必要な研修や地区エリア会議に参加することで職員の資質向上に努めた。
- ④ 介護予防サービス計画、介護予防・日常生活支援総合事業に係る介護予防ケアマネジメントについては、各あんしん相談センターから居宅介護支援業務に支障のない範囲で受託した。
- ⑤ 能美市から要介護認定調査業務を受託した。

能美市社会福祉協議会 能美居宅介護支援事業所 令和3年度 実績報告

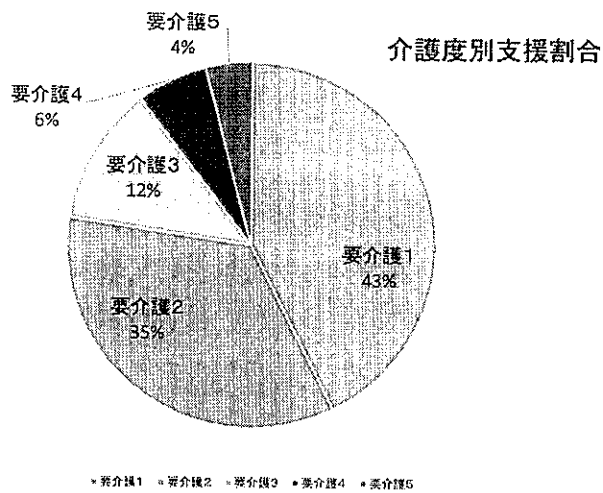
<介護保険事業>

介護保険の要介護の方や家族の要望に基づき、居宅介護サービス月間計画(ケアプラン)を作成 (単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数	ケアマネ一人当たりの件数
作成件数	68	69	67	64	66	73	73	73	73	70	71	68	835	34.8

月別介護度支援内訳

要介護1	27	25	27	27	26	31	30	31	33	35	33	30	355
要介護2	25	26	24	22	23	26	27	26	26	21	22	23	291
要介護3	9	9	8	8	10	10	9	8	8	8	8	8	103
要介護4	5	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	4	52
要介護5	2	4	3	3	3	2	3	3	2	2	4	3	34



<受託事業>

※住宅改修業務: 依頼なし

予防プラン作成

	件数
4月	3
5月	3
6月	3
7月	3
8月	2
9月	2
10月	2
11月	2
12月	3
1月	3
2月	2
3月	1
合計件数	29

認定調査受託

	件数
4月	0
5月	0
6月	1
7月	0
8月	1
9月	0
10月	1
11月	1
12月	1
1月	1
2月	1
3月	2
合計件数	9

能美市社会福祉協議会 能美居宅介護支援事業所
令和3年度 実績報告

< 収入 >

(単位：円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護	805,880	827,590	786,610	753,580	793,560	856,730	868,000	847,000	851,060	812,780	831,480	813,240	9,847,510
要支援	7,170	7,170	7,170	7,170	5,650	5,650	5,650	5,650	14,680	9,780	5,650	4,130	85,520
認定調査	0	0	2,970	0	2,970	0	2,970	2,970	2,970	2,970	2,970	5,940	26,730
その他(住宅改修のみ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000
収入計	813,050	834,760	793,750	760,750	802,130	862,330	873,620	855,620	863,710	825,530	840,100	823,310	9,959,760
令和2年度収入計	954,830	935,360	888,340	967,450	936,050	984,880	996,580	1,000,970	1,004,910	991,160	970,140	923,470	11,554,140
増減(令和3年度-令和2年度)	△141,780	△100,600	△91,590	△206,700	△133,870	△122,500	△119,960	△145,350	△136,200	△165,630	△130,040	△100,160	△1,594,380
累計	813,050	1,647,810	2,444,560	3,205,310	4,007,490	4,869,870	5,746,490	6,602,110	7,470,820	8,296,350	9,136,450	9,959,760	

< 利用者数 >

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
要介護	68	69	67	64	66	73	73	73	73	70	71	68	835
要支援	3	3	3	3	2	2	2	2	3	3	2	1	29
認定調査	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	2	9
その他(住宅改修のみ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者数計	71	72	70	67	68	75	75	75	76	73	73	69	864
令和2年度利用者数計	69	67	64	69	66	69	70	72	72	71	70	68	827
増減(令和3年度-令和2年度)	2	5	6	△2	2	6	5	3	4	2	3	1	37